

NO. 18 火おこし（マイギリ式）

1 ねらい

木と木を擦り合わせた際に出る摩擦熱によって火をおこす活動を通して、火の大切さや、現代人の生活がいかに便利なものであるかということに気づかせると共に、自然に対する感謝の気持ちを育てる。

2 活動の計画

- (1) 活動期間 4～11月
- (2) 所要時間 火おこしのみ（30分～1時間程度）
火おこし～野外炊事やボンファイヤー（3～4時間）
- (3) グループ編成 数人（野外炊事のグループ編成でも可）
- (4) 活動場所 野外炊事棟近辺
- (5) 準備物

〔自然ふれあい館〕	〔利用団体〕
マイギリ式 火おこし器 (在庫：19組)	<ul style="list-style-type: none"> ・火きり板（事前に準備）※ふれあい館で購入可：300円/枚 ・火きり杵（摩擦棒）※ふれあい館で購入可：200円/本 ・火口（事前に準備） <p>※団体が準備できない場合は、自然ふれあい館で準備。 (事前打合せで確認。利用当日乾いた古雑巾と交換)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新聞紙、ティッシュ、ろうそく

3 活動上の留意点

- ・火きり板と火きり杵は、十分に乾燥させておくと良いです。
- ・野外炊事と一緒にを行う場合は、薪割りや野菜切りの作業を終了させておき、煮たきの準備が終了してから火をおこし、かまどの薪に点火するようにします。
- ・おこした火をかまどの薪に点火する場合は、かまどのすぐ前で火おこしを行います。
- ・おこした火をとっておくには、ろうそく等を使用します。

4 展開例

区分	活動内容	備考
説明	・ねらい、火のおこし方の説明、諸注意を聞きます。	自然ふれあい館職員から説明
活動	1 班毎に用具を受け取ります。 2 火おこし <摩擦→火種→炎→利用> *炎は新聞紙やろうそくに点火します。	火傷に注意
整理	1 火がついた喜びを振り返り、火の大切さ等を考えます。 2 用具の後片づけをします。	

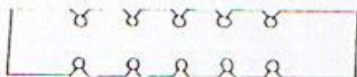
火おこしの手順 (マイギリ式)

○ 準備物

ふれあい館	火おこし器 (19台)
利用団体	火きり杵・火口 (ほくち)・火きり板・新聞紙・ちり紙

○ 火おこしの手順

火きり板 (杉板で自作)

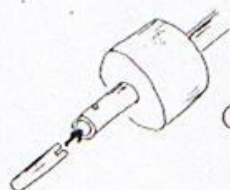


- ・穴は直径約1cm深さ約2mm
- ・V字カットは約90度
- ・穴とV字が接する

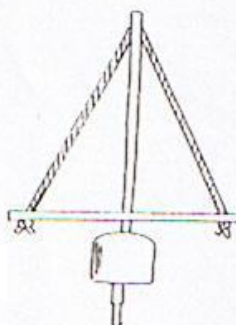
火種を落とす火口入れを作る



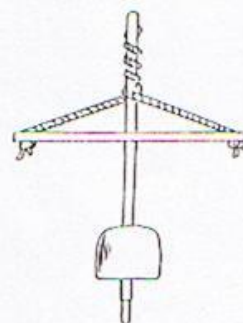
- ・図を参照。
- 新聞紙 (お椀状にする)
- ・火口は雑巾を消し炭にしたもの等を使用



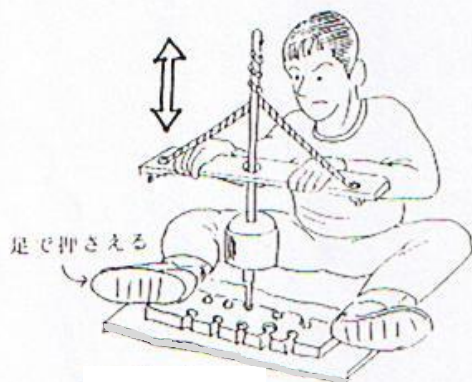
①火きり杵を (摩擦棒) を本体の先に差し込む。



②横木を水平にする。

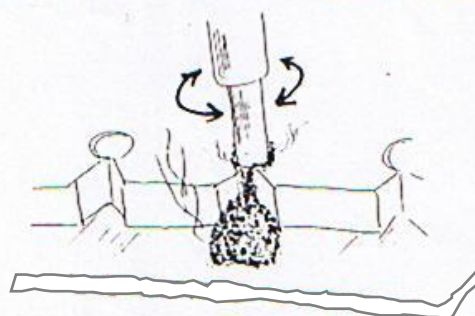


③本体の棒を回してひもを巻く。



足で押さえる

④横木を両手で持って上下させる。



⑤摩擦によりこげ茶色のこなが出る。煙が出ていれば火種となっている。



⑥火口に火種を落としたり息を強く長く吹きかける。



⑦炎になる。